

昭和31年6月18日第3種郵便物認可
毎月1回1日発行
定価1部15円
印刷所 田辺印刷株式会社
上田市原町 TEL (2) 1492・2566

千曲会報

編集兼発行人 小林 尚一
発行所 社団法人千曲会
長野県上田市常入信州大学繊維学部内
振替 長野 6243・東京 43341
電話 上田(2)1215(代表)(2)1218(直通)

年 頭 の 挨拶

社団法人千曲会理事長 荻原清治

新しい年をむかえ、母校教職員の皆さん、並に千曲会員各位のご繁栄を祝福し、あわせて益々ご多幸でありますよう心から祈念致します。昨年も今年こそは平和な年でありますようにと祈念して新年をむかえたのでありますが、人力では如何ともできない大きな力によっていろいろな事件が絶えません。これも神が吾々に常に緊張と試練をあたえるためのものかも知れません。昨年をふりかえって見ると、史上第二の米の豊作の報は大きな朗報でしたが後はいけません。三河島の国鉄の重大事故、年末になって三池炭鉱の大爆発、鶴見駅の事故等、今も忘れられない出来事です。目を世界に転ずると、ケネデー米大統領の暗殺、続いて暗殺容疑者の暗殺と言う二重暗殺は近代史上始めてと言う事件で世界第一の文化国家と誇っている米国内で起きると言うことはどうゆうことなのでしょう。全世界の人々が神に祈り、仏に祈って平和を念じているのにあまりにも陰惨なことが多すぎます。

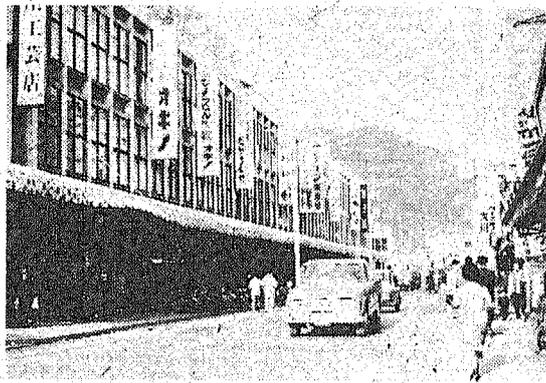
これが東西両陣営の力の均衡を破る原動力となり、今後の世界情勢に大変化が起らなければよいがと祈らずにはいられません。こんな情勢の中にあつて今年オリンピックが初めて東洋の東京で開かれます。全世界から数万人の人々が一度に吾が国に集まります。国としては国情を世界に知らせる絶好の機会です。会員各位も日本人の一人としてこれに関係ある人も、ない人も大きな関心をもっていることでしょう。この有史以来の大フェスティバルが無事に且つ有意義に終ることを祈念しましょう。

さて千曲会の昨年度の仕事をみますと、第一に各位に協力願った火災復興募金がありこれは本年三月末をもって募金を締切ります。今まで千曲会は寄付金を集めては母校に出してしまい会に残るのは母校に奉仕したと言う精神的な安堵感だけでした。これについては批判もありますので今後は募金については充分に慎重に扱っていきたく思います。

次に懸案の厚生施設が御代田町(西軽井沢)にでき、年末金寅の縁喜のよい日に竣工を見ました。朝夕、浅間山の焼煙を見上げる閑静、景勝の地です、会員各位に盛んに活用してもらいたいと思います。次に例年開く総会はずいぶん長時間かかるのが例であったが、昨年は時間正確を計画し、時間どおり審議を進め午後四時に閉会をすると言うスピード振りを見せ、だらだら会議の考えを一掃し、名議長振りを発揮した山田議長に万雷の拍手が送られました。今年はこの総会に見せたような清新にして有意義な会の運営を進めて行きたいと思ひます。皆様のご協力をお願いします。次に皆様からの強い希望のある会員名簿の発行を実現したいと思ひます、動静部では年末綿密な住所の調査を行ない、着々準備を進めていま

すので秋頃までにはご利用願えることと思ひます。この仕事は非常に苦勞でありまして委員は研究の時間を犠牲にして努力しています、会員各位においても絶大なご協力をお願い申上ります。さて目を母校に転じて見ましよう、目下新編成が着々と進み、詳細は名誉会長が総会の挨拶で述べられているので会報の12月号をご覧ください。

千曲会の本来の目的は会員の親睦が第一義であります、最近のようにマンモス会となると科別の交流の不円滑や、年令差から来る考え方のズレなどに原因して緊密な親睦の実をあげることが益々困難となつていまして、このことはマンモス支会でも言われていす。これを解決していくには、支会の細分化、卒業年次別などの対策が考えられます、現に愛知支会では支会を地区別に分けて交流しており非常な円滑な運営をやっています。本会としてはこれらの集まりが本会につながる何等かの処置がとれば良いと考えています、あるところでは卒業年次別に集まりをやつて親睦の実をあげている所もあります。また賛助会員との親睦も極めて大切なことでもあります。昨年来、賛助会員も先生方にも支会の総会に出席を願ひし、地方会員との話し合いをしていただき、温故の実をあげています。千曲会が母校と表裏一体であると言うことは今日まで自他共に任じて



松尾町通りより太郎山を望む

いたモットーであります。そして先輩達はいろいろと苦心をして母校のために尽力してきているのであります、そして吾々もまた会員相互の親睦の実をあげ、また母校のためになれかしと努力していることは昔も全く変わりありません。しかし、今日のように会員数が激増してマンモス会となつて来ますと全会員の心を一つにまとめると言うことは容易ではありません。

今年もまた新しい年をむかえたのであります。千曲会はあくまでも親睦第一主義を中心とし、一致団結して今後益々会員の緊密な連絡をはかり、相携えて会員の幸福のため、ひいては母校の発展のため心を新たにしてい進もうではありませんか、賛助会員の先生方にも千曲会のあり方について充分にご理解をいただき一層のご交誼を賜わり、ご指導の程をお願い致します。

吾々も従来の運営方法を検討し、清新な雰囲気をもって会の運営をおこない、親睦の実をあげていきたいと考えています。各会員におかれても絶大なご指導とご協力を賜わりますようお願いを致します。

以上年頭に当り所感を述べてご挨拶と致します。

Fusarium solani に関する研究

桜 井 善 雄

不完全菌類で植物病原菌として重要な位置をしめる *Fusarium* 属菌のうち *F. solani* (完全時代をもつものは囊子菌類の *Hypomycessolani* に属する) なる group species を構成するメンバーについて、病原学的、系統学的研究を行なうとともに、分化型 (forma specialis) の寄主特異性および無性生殖における核物質再生産機構などについても 2・3 の知見を加えた。

F. solani の病原学的研究：本邦各地において35種の寄主植物から分離された300余の菌株に California 大学から送付された *F. solani* f. *cucurbitae*, *F. solani* f. *pisi* および本邦においてすでに同定されていた *F. solani* f. *phaseoli* を加えて、相互接種その他により病原性および分類学的諸性状を検討した。その結果、クワ芽枯病菌として *Hypomyces solani* f. *mori* n.f. および *H. solani* f. *radicicola* race 2, サンショウ胴枯病菌として *H. solani* f. *xanthoxyli* n.f. をそれぞれ新分化型として命名記載するとともに、バレイシヨ、コンニャク、レンコン、ナガイモなど種々の植物の越年性地下器官の腐敗病を基因するものは *F. solani* f. *radicicola* race 1 であることを明らかにした。また *F. solani* について今日までに明らかにされている 10 form sp., 2 race のうち 8 form sp., 2 race について、病原性とくに寄主範囲を検討し、その特性を明らかにするとともに、本邦における *F. solani* のフロラを記載した。

F. solani における種内群分化と form sp. 間の系統的關係：各種の form sp. および race にわたる多数の菌株について、完全時代および不完全時代の形態的諸性質の比較検討を行ない、大型分生胞子の形態により *F. solani* の form sp. は4つの形態群に分けられ、しかもこれら形態群分化は病原的特性の分化とよく一致することを明らかにした。また前述の f. *mori*, f. *xanthoxyli* および f. *radicicola* race 2 の有性生殖の機構について研究を行ない、これらの交配型はいずれも基本的には雌雄同体であり、和合型固子の分離によってヘテロタリズムを示すことを解明した。さらにこれらに完全時代をもつ他の form sp. を加えて相互交配の実験を行った。その結果 f. *radicicola* race 2 × f. *pisi* が成立するほかはすべての form sp. は相互に不稔であり各々独立の交配群をなしていることがわかり、種内に4つの交配群を認めた。かかる form sp. 間の生殖隔離が自然界においても明らかに存在することを、自然状態で形成された

子囊殻の progeny の解析によって証明した。なおこれら交配群の分化は前述の病原特性及形態群の分化と密接な関連を示している。また、上の結果から今まで完全時代の記載のなかった f. *pisi* にも *Hypomyces* 時代の存在が明らかにされた。ついで以上の如きさまざまな種内群の分化と生化学的性質の分化との関連を追求する端緒として48種の炭素化合物に対する資化性を比較検討した。その結果、多価アルコール有機酸など20種の物質の資化性には *F. solani* の種内における形態群、交配群および病原的特性の分化と関連した著しい特異性がみられ、その関係が論議された。

以上のような *F. solani* の種内における諸種の種内群分化とそれらの特性に関する実験結果から各 form sp. の相互関係や *F. solani* なる group species が示す特異な生物学的構造、種概念などを論議し、さらにそれらの系統学的関連について考察した。

form sp. 間の寄主特異性に関する組織学的研究：*F. solani* の form sp. の中から f. *cucurbitae*, f. *phaseoli*, f. *pisi* および f. *radicicola* race 1 をえらびそれぞれ各々の寄主であるカボチャ、インゲン、エンドウまたはバレイシヨに対する侵害機構を病理組織学的に観察するとともに上記 form sp. と寄主植物の総当り相互接種を行ない、病原菌-寄主相互関係について組織細胞学的検討を試みた。その結果完全抵抗から発病枯死にわたるさまざまな段階が明らかにされ、その機構について論議した。

無性生殖における核物質再生産機構：*F. solani* の無性生殖すなわち大型分生胞子、小型分生胞子形成過程を細胞学的に観察した。その結果すべての form sp. の無性胞子形成において、細胞核は形成母細胞娘細胞いずれにおいても有糸または無糸の分裂像を示すことなく、核物質は細胞質中に分散した形で再生産されて外生娘細胞中に送りこまれ、娘細胞すなわち新たな分生胞子の完成とともに再び局在して核を形成するという特異な過程をとることが解明された。

以上の研究は本学微生物学教室において松尾教授の御懇篤な御指導と御援助によってなされたものである。また研究遂行に当って八木教授、田口教授、長島助教授、小山助教授から多大の御指導と御激励をいただき、さらに西村善次、坂口日出子、成沢宏、中村偕子、坂口表の各位にも少なからぬ御援助をいただいた。附記して深謝の意を表する。

(本文は繊維農学科小泉研究室、農学博士桜井善雄氏の学位論文の要約である)

<p>特許・実用新案・意匠・商標 出願・訴訟・鑑定</p> <p>浜 特 許 事 務 所</p> <p>東京都芝新橋1の20 堤第一ビル四階 東京(591)-0764・0765</p> <p>弁理士 浜 香 三 弁護士 中 猪 之 助</p>	<p>総合建設工事一式</p> <p>土木建築アスファルト舗装 設計施工 上下水道衛生設備工事</p> <p>長野県上田市大字常入682</p> <p>株式会社 宮 下 組</p> <p>TEL (上田) (2)0271.2071.4034</p>
--	--

さ ろ ん 太郎の山色

—総会出席記—

野口 活也(蚕13)

総会の前夜おそく上田駅に着いたら、旧友が夫妻して、自家用のパブリカで迎え、田沢温泉のご案内を受けたのには驚いた。恐縮して客となり、翌朝車で送られて、校門を入ったのは定刻を15分過ぎていた。二階から下りて来た学部長さんにぶつかった。“さあはじめますから”との挨拶であった。

議事平調。仙台くんだりから出て来る程のことなし、といたいところだが中央の新聞にも顔を出したタコの足大学の教養課程分離の問題である。養蚕・製糸コースの入学難、教養・専門課程職員配置の問題等、もろもろのことをはらんでいるのではないかと、感づってはみたものの、議事としては何も出て来なかった。御代田かどこかに20坪足らずの厚生施設が出来るとか、来年の会場を市民会館にするなどということ、古い卒業生にとってはどうでもよいことであった。大詰めは“千曲会のあり方”であったが、大きな問題にならぬうちに通過。4時にすんで、5時半からの香青軒には間があるというので、それまでをバスで公園に案内された。

そこには新しい市民会館が数日前店開きをした姿で待っていた。議事の際にも誰かがいった“今度出来た市民会館がどんなに立派か知らないが、我々はそんな所で総会を持つことは無意味だ。破れた屋根の下でもよいから、昔の母校で開いてもらいたい”とむべなるかな。

会館が立派なので、すぐそばの真田城二重やぐらは頗る貧相に見えることになった。

屋上で展望。眺めは昔の記憶を呼び起す。東にエボン、西にコクサギ、南にトッコ、北にタロウ。曇っていて、楽しみにして来たアルプの槍の鋭いキッサキは望まれない。太郎は初冬の寒空に紫にくすんで、変らぬ落ちつきをみせ、鳥帽子はどっしりとかまえていた。今頃の夕陽には鳥帽子のトンガリがライトエローカーに輝いたものだが、と30年前の山色をなつかしく思う。

公園は昔よりは汚なくなっていた。市役所の予算の問題であろうか。園内のととのわなない感じは、大樹のないことと、路らしいものができていないことであった。然し会館の県展には、思い切ったディスプレイアメーションの木彫の首などが出ていて、結構たのしかった。

風邪がコジれそうなので翌朝早々上野に出た。途中浅間の前掛に、白雪が朝日にキラキラと輝いて美しかった。上野で八甲田に乗り換えたら、インド展を見て青森に帰る夫妻と向い合った。話しが進んで“御専門は?”と聞くと“かたまりのよおなもの——”という。かたまりのようなもの。一見この禪問答に興味を感じ、仙台までの6時間を楽しみ過ぎた。

今度の総会出席を振り返ってみると、私は校門に入って出るまでに500歩とは歩いてないだろう。正門で車を降りて、受付にかかって議場に入り、終ってすぐバスに乗ったのだから。何年目かに行き乍ら、校内を何も見えない。高分子の研究所を見る時間がほしかった。わざわざ遠くから出向いた者の心の底には上田の街の新しいスーパーマーケットや、海野町のほいでヤデパートなんかは見ずもあれ、スリへった旧い校舎の廊下の敷石を渡り、朽ちたであろう修己寮の踏板をギンギンと音を立てて歩いてみる機会が無かったのが残念であった。

(11月28日)

針塚長太郎先生—その伝記と 追想記—を読んで

宮下 久吉(蚕32)

針塚先生の伝記と追想記の刊行される話を聞いた当時、筆者には特別な感想がなかった。偉大なる初代校長という話は聞いても直接教養を受けなかった私には大して関係のない事と考えていたのである。

この書物を手にするに至った動機は松尾卓見さんからのすすめによるものであったが同氏からのすすめがなかったら恐らくこの本を手中にすることはなかったであろう。私はこの本を一読して針塚先生に教養を受けなかった卒業生にもその購読をすすめたいと思ひ筆をとった次第である。

内容は大別して伝記と追想記から成り立つが、伝記はこれを7章に分っている。

(第1章幼少年時代、第2章東京時代、第3章上田蚕糸専門学校長時代、第4章校長退官とその後の上田生活、第5章帰郷とその後、第6章一世の師針塚先生、第7章逝去)

1章から7章を通じ先生の生いたちから学生時代、母校校長としての業績、退官後の処世、豊かな趣味などが鈴木教吾氏の筆によって見事に描かれている。伝記というものは恐らく書くにその人を得ないときには人々に多くを訴えたいと聞くが、鈴木教吾氏という適任者を得てこの伝記は針塚先生の人格と業績を一層光り

彩あるものとしている。この伝記の部で筆者の印象に深く残ったのは第11節蚕糸業政策への志向という一文である。大正14年に早くも蚕糸業の海外雄飛を説き、昭和8年生糸より織物輸出の主要性を強調されたという話は先生のヴィジョンが雄大でありかつ洞察力に富むことを示していると思う。また昭和5年に発表された養蚕経営改革に関する論文は今日における養蚕の姿を既に洞察されておられたというが、今日の言葉でいうオピニオンリーダーの役目をも果たしておったのではなからうか。

次に追想記の内容は大きく四つの区分から成り立っている。一は親族、元母校先生、知友などでここでは針塚正樹氏を始め24人の人々の追想が記載され、二は同窓生第一期(大正3年から同10年まで)で浦生俊興氏始め34人、三は同窓生第二期(大正11年から昭和6年まで)で小松茂久氏始め29人、四は同窓生第三期(昭和7年以降)で大木定雄氏始め15人の人々の追想記が掲載されている。

この追想記の執筆者の過半数の人々と筆者は面識があるし、多くの御教示を頂いた人々も少なくないが、そういう先輩の書かれた追想記を読んで実は非常に感慨を深くしたことがある。今迄筆者の接した多くの先輩各位はこの追想記に盛り込まれているような人生の機微にふれるような話は余りされなかつたのである。例えば役人として功成り名とげたある先輩に若かりし頃進退きわまるような苦衷がありその苦衷を切り開く方途を示されたのが針塚先生の手紙であったというような話はこの本で初めて知ったのである。このような話がこの追想記には数多く含まれており吾々が世に処するに当って参考となる数多くの教訓が含まれている。

この追想記の読みどころはこの辺にあると私は思っている。つまり多くの先輩が長い人生において体験したあらゆる世の教訓がこの追想記によって針塚先生を介して語られているのである。針塚精神という言葉は聞いたがその実体が何物であるか知らなかった筆者はその意味するところが少しは判ったような感じがする。針塚精神とはまことに言うは易くして行なうは難いことであるという感じがする。本書を読むと針塚先生の居られた頃の千曲会の団結が強固であったということもまた当然のことだと思つた次第である。それは一言にして云うならば針塚校長と個人個人の卒業生が人間として深くかたく結びついていたということである。

針塚校長の卒業生に対する愛情は今日の常識ではちょっと考えられないほどである、その故にこそ卒業生が深い尊敬をの

ちのちまでも持ち続けたものと思われるのである。このことは単なる月給取の精神によってはできないと私は思う。月給取ではできなかったことを良く成し遂げられたところに所謂針塚精神というものがあるように私は思うのである。またそれがかつての千曲会のバックボーンを形成していたのである。

千曲会を強化することを主張する人々は針塚精神の現代版を実証する覚悟が必要ではあるまいか。若しそれが現在においては不可能であるというなら千曲会の強化などということは云わない方が良く私は思う。

話は少しく脱線したが、このような書物は一般の書店で購入することはできない。正に千曲会の仕事にふさわしいものであり、関係者の労に対し感謝する。本書はとくに針塚先生に教えを受けなかった卒業生が処世の生きた教訓を読みとるために必読する値うちがある。

兵庫支会便り

昭和38年度兵庫支会の総会を11月13日神戸トーマス・ロード神仙閣で開催した。今総会には役員改選期でもあり、本部総会への提出議題の案件、派遣代議員の決定等の協議事項もあったが出席率は例年に比して聊か低調で漸く18名の出席を得たのみであった。併し滅多にお顔の見せたことのない郡是塚口工場の千葉氏(糸19)兼松羊毛の矢鳥氏(紡13)等の外、今年の新卒でケモチキスタイルリミテッドという会社に就職され神戸に來られた鈴木氏(紡21)、南氏(紡21)等も出席されたので座も頗る賑わい、名物中華料理に灘の美酒を存分に酌み交し和気あいの内に午後9時頃閉会となった。

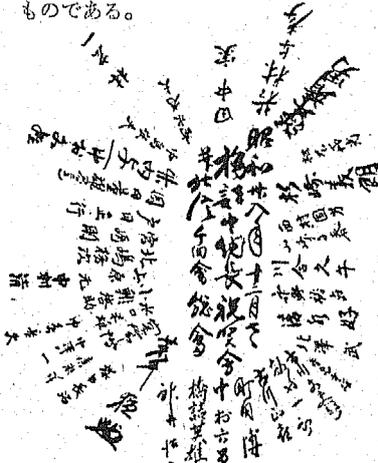
尚当日役員改選の結果大塚支会長は勇退され目下業界で大活躍をしておられる鐘淵蚕糸の鈴木玄九氏(糸19)に御多忙の処を御無理をお願いして新会長に就任して頂くこととなった。来年は本部から先生にも御出席願う予定しております。支会員各位もその心積りで次回は多数御出席下さるよう御願ひ致します。

(M生記)

北信支会総会に出席して

12月7日長野市の裾花川々岸にあるあさひ荘で北信支会が開かれ、母校から中村六男教授と町田博千曲会理事が出席した。

北信における同窓生は約150名で支会の中では大きい方である。その中の50名は県庁に職をもつ者で、県庁千曲会を編成して北信支会の中核となっているようであって、今回の総会はその県庁千曲会の会長橋詰英雄氏が県特別職三役の出納長に再任された祝賀を兼ねて開かれたものである。



出席者は寄せ書きのとおりで、県庁関係者が大半を占め、経済連等団体関係者数名の外会社関係1~2、教員関係1名と云うように、県庁以外の諸氏の参会者の少なかつたのは淋しかった。

須坂、飯山地区を飯高支会として独立させてからは地域的には他支会に比べて比較的まとまっている支会で殆んどが長野市内に在職する諸氏である。

荒井猛支会長の挨拶から始まって橋詰英雄氏の挨拶があり、続いて町田理事から過般の千曲会総会における議題を通しての会の近況が話され、中村教授から母校における最近の進展情況が話された後支会の会計報告、役員改選がなされて酒宴に入ったのであるが、今回の特記すべきことは、本部からの要請もあったことにもよるが、戸田正行幹事のエネルギー

的な努力で支会員名簿ができたことである。そして千曲会員名簿の広告が委員をあげて大いに集めることが約され、名簿の早く出来ることが期待された。

役員は2年改選であるが、会長が再任された外、副会長、代議員、幹事等にそれぞれ補充移動が2~3あって若い層が進出した。事務局は農試から蚕試に移った。

兄弟にも匹敵するきずなで結ばれた同窓生として、酒を酌み交しながら年代を越え、職場をはなれて全く気らくな立場で、社会談事業談に熱し、漫談に興ずるのは人生に折々欲しい楽しみである。会えるだろうと期待していた者が参会しないことは淋しいことで、その安否を安ずるものである。こう云う会は万障繰り合せて参会したいものである。(町田記)

北信支会だより

例年であれば出席者20~30名であるが今回は橋詰出納長の再任祝をかねて行なわれたため、寄せ書きにみられるように50名近い出席者であった。1人1人の自己紹介も夫々の社会生活の味がでておもしろく、出納長自らも冗談まじりのお得意の一説を述べられた。宴会も盛大で母校から見えられた英語の中村先生、織農の町田先生もボンゴザとなり大部よい御気遣いなられたようである。こんな盛大な会なら幹事も苦勞はいとわない、来年もこんな会でありたいと思う(戸田記)

ご挨拶

新春をお迎えさせられおめでとうございます。

私ことながい間お世話になりました織維学部事務長を先般退職いたしました。いろいろ公私ともに格別のご厚情に預かり深く御礼申し上げます。

旧臘11日つごうにより後記のところへ転居いたしました際は、なんのお役にも立たなかつたのに過分のご饗別を賜わりご芳情まことにありがたく重ねて御礼申し上げます。

いよいよ貴会の発展と皆さま方のご多幸をご祈念申し上げこんご一層のご指導とご交誼をお願いして御礼のご挨拶といたします。

昭和39年元旦 清水運策
松本市巖方崎東区571
千曲会会員ご一同様

針塚長太郎先生—その伝記と追想記—

われわれの師父針塚先生が

いかに道をおもい

人間を愛してきたか……

あゆみつけられた道を

いまあたらしく ふりかえってみよう

A 5版 280頁 実費頒価 1部 1000円

(千曲会振替口座 東京43341番を御利用下さい)

申込先 信州大学織維学部千曲会館内

針塚先生追想録刊行委員会

財団法人上田繊維科学振興会研究助成規定

1. この規定は(財)上田繊維科学振興会寄付行為第4条第1項第1号にもとづいて定める。
2. (財)上田繊維科学振興会(以下本会という)は繊維科学およびこれに関連した科学の分野における優秀なる研究に対し、助成金を交付しその研究を奨励する。
3. 本会は毎月2月助成金交付希望者を募集する。
4. 助成金の交付を受けようとするものは助成金交付申請書を本会理事長に提出しなければならない。
5. 応募研究は個人または協同研究とし、ある程度の成果を得ているものとする。
6. 助成金交付研究の選定は研究委員会において行なう。
7. 委員は学識経験豊かなものを理事長が委嘱する。その定数は5名以上とする。
8. 委員会は応募研究の中から、研究を助成するに適當なものを選び選考理由書をつけ理事長に報告する。
9. 表彰規定(10)と同じ。
10. 研究助成金は5月末日までに交付する。
11. 研究の助成をうけたものが、助成金受領後その研究を行なうことができなくなった場合、あるいは中止した場合は、すみやかにその旨を本会に申し出なければならない。
12. 研究の助成をうけたものは、助成金の交付が決定してから1年を経過したのち6ヶ月以内にその研究成果を本会に提出しなければならない。
13. 助成金の交付をうけたものが、その助成金による発明、研究等の成果に関して特許権または実用新案権を得たときは、その事実について本会に報告しなければならない。
14. 助成金の成果の概要は千曲会誌上に公表するものとする。

財団法人上田繊維科学振興会研究表彰規定

1. この規定は(財)上田繊維科学振興会寄付行為第4条第一

- 項第2号にもとづいて定める。
2. 本会に繊維科学振興会賞を設ける。
3. 繊維科学振興会賞は、繊維科学およびこれに関連した科学の分野において顕著な功績のあったものに授与する。
4. 前項の業績は発表された論文、著書または発明考案とする。
5. 受賞決定者には賞状および賞金を贈る。
6. 繊維科学振興会賞の受賞候補者は信州大学繊維学部長または千曲会理事長より推薦されるものとする。推薦の締切は毎年9月末日とする。
7. 受賞者の選考は受賞選考委員会において行なう。
8. 委員会の定員は5名以上とし理事長が委嘱する。
9. 委員会は推薦候補者の中から授与の価値ありと認められたものを選び選考理由書をつけて理事長に報告する。
10. 理事長は前記報告書を理事に配布し、無記名投票によってその価値を問う。投票数は理事定数の2分の1以上でなければならない。有効投票のうち可とするものが3分の2以上であるときは受賞者とする。
11. 授賞は千曲会総会のさいに行なう。

財団法人上田繊維科学振興会寄付行為
第4条第1項第4号、第5号の補助内規

1. この内規は(財)上田繊維科学振興会寄付行為第4条第1項第4号、第5号にもとづいて定める。
2. 本会は予算の範囲内において繊維関係の学会、討論会、講演会、その他これに準ずるものに対し補助金を交付する。
3. 補助金の交付を受けようとするときは補助金交付申請書を理事長に提出しなければならない。

火災復興資金募集

募 金 要 項	
募 金 目 標 額	5,800,000円
復興資金として 母校へ提供する金額	5,000,000円
拠 出 額	1口 金1,000円 1口以上
申 込 期 限	昭和39年3月末

千曲会員各位

母校火災復興資金募集実行委員長
 巢 山 喜 吉
 社団法人千曲会理事長
 荻 原 清 治

火災復興資金完納者氏名 (12.20現)

- 5,000円 小湊 潔(糸4・京滋) 宮沢岬(蚕19・京 滋)
- 3,000円 杉本佳英(紡28・愛知) 古平太三(紡18・石川)
- 辰野邦雄(学化1・愛知)
- 2,000円 池田龍幸(化5・東京) 猪坂直一(蚕6・上小)
- 樋口忠義(蚕14・更埴) 寺崎喜美(糸23・北奥)
- 遺山正人(蚕20・北佐久) 山内一次(蚕22・越佐)
- 小林茂樹(学蚕7・千葉) 吉津柏(紡5・熊本)
- 1,000円 山越清美(化4・更埴) 山口邦友(学蚕2・埼玉)
- 宮下民雄(学蚕5・東京) 滝沢一雄(学化7・東京)
- 等々力宜安(糸22・東京) 近藤五代治(糸6・愛知)
- 小林成雄(蚕別3・上小) 野本信次(糸22・愛知)
- 工藤亮(学糸3・愛知) 平野庄一(紡16・愛知)
- 飯塚正盛(学化3・愛知) 安部吉昭(学化10・愛知)
- 塩入敏行(農4・越佐) 山本七郎(紡14・埼玉)

為替のご用は
 はやくて たしかな
 富士をご利用下さい

千曲会へのご送金は、当店宛の振替貯金
 口座長野3523が一番ご便利です

上田市原町
 皆様の  富士銀行上田支店

信州鹿教湯温泉

日観連会員 文 珠 荘
 交通公社協定

TEL (西内) 35

第24回千曲会総会記

本会第24回通常総会は11月23日勤労感謝の日母校第1会議室において開催。出席者は北奥支会から南宮崎支会にいたる24支会から代議員、役員が102名出席した。委任状の提出は27名で総会は成立し次の次第で進行した。

- 1, 理事長挨拶 荻原清治 2, 名誉会長挨拶 小泉清明
- 3, 会務報告 理事 山口定次郎 4, 議長選出

議長選出は理事長に一任との提案で、議長には山田良人氏(静岡支会長) 副議長には浅野清志氏(安筑支会長)が拍手のうちに選出され議事に入った。

5, 議 事

- (1)昭和37年度収支決算について (2)昭和38年度収支予算について (3)会員名簿発行について (4)母校火災復興資金募集について (5)千曲会厚生施設利用について (6)千曲会のあり方について (7)総会に講演会開催について (8)賛助員の推せんについて(9)その他

6, 報告事項

- (1)上田繊維科学振興会事業について (2)菅平部分林の管理について (3)会費の納入について

○昭和37年度収支決算：

町田理事から別掲原案を重点的に説明があり、田口玲監事より監査報告があり万場一致原案可決した。

○昭和39年度収支予算：

町田理事より別表予算書の説明があった。荒木代議員

より緊急助議があり理事会において議案を審議してあるのでポイントについて説明、審議して議事進行の要望があった。

町田理事より39年度予算について ①収入の部で項目の序列を正しく変更したこと。②施設使用料として新に項目を設定した。これは本会厚生施設が出来上り西軽井沢楓ヶ丘千曲寮の使用料を予算に経上したこと。③雑入が前年度より減額されているが50周年記念風呂敷の残部がなくなったためである。④その他予算増は会員増に伴う自然増加であることを説明。歳出予算については ①会議費総会費を増額したこと。②厚生施設費として新に項目を設定した。これは楓ヶ丘千曲寮の管理費、諸税等経上した。③会費集會費を前年より減額した。これは会費の集金について支会、会員のご協力に期待したためである。④その他予算増は会員増に伴う自然増である。質疑のあと全会一致原案可決決定した。

○会員名簿発行について

関理事より会員名簿発行計画について明秋までに(9月予定)発刊するから経費、会員の動静について審議されたい旨提案説明があった。なお広告料、会員動静正確については支会の協力を特にお願いしたい。広告料は各支会にお願いし、広告決定したものについては、広告料の30%を支会に広告募集費として還元する。予約申込部数については過般各支会に照会したが概算申込部数は580部で非常に割高になるので予約部数を多くするよう各支会にお願いしたい。

質疑(群馬支会)他大学同窓会で無料で配布しているところもあるが調査してほしい。(東京支会)形式はきまっているか割安にする名簿の作成様式を検討して欲しい。(上小支会)前回の部数を参考に支会に割り当てる。特に正確にして欲しい。

(北信支会)職業別に分けるとかして正確に調べるように注文部数を多くして安価に出来るように希望する。

(東京支会)正確さ一発刊に協力しなかった人でも出来上たものについては批判する。正確をモットーとしも誤りがあるので発行後期間を限ってアフターケアを設ける。(会報等で)経済上—過去の実績から押して必要部数を決めて作りそれを売りさばく。将来は簡単で時々発行するようにして欲しい。(北佐久支会)会員で成功者も多いので多額収入者に負担してもらってはどうか。(近畿支会)広告料は支会によって重点的に集めたらどうか。以上の質疑に理事者より説明があり、特に荻原理事長より無料発行にしている他大学同窓会では寄附金が基金となっているようである。本会では全て学校当局に入っているのも無料配布は出来ないが将来楓ヶ丘の厚生寮の収益や菅平部分林の収益が見込まれるので期待出来るが、今回はどうしたらよいか考えて欲しい。議長採決により、決定したことは前回の発行を基準に東京支会を初め各支会の声を参考にし発行し出来上りの上は完全売りさばきをする。広告料については1頁広告6,000円、半頁3,000円とし広告決定した場合は軒廻した支会にその30%を経費負担(還元)する。以上の線で各支会が協力することを了承した。

○母校火災復興資金募集について

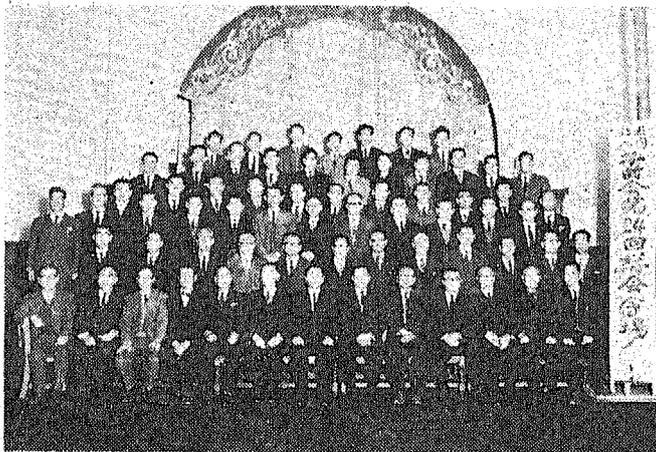
町田理事より配布資料について説明があり質疑(近畿支会)寄付受付を続行す

るのか、それでも締め切めるのか町田理事募金目標額は580万で納入期限は本年3月までであった。納入成績不良のため申込期限は6月末まで延期納入期限は12月までとしたが。まだ300万に達しないがこれ以上は無理かと思われる支会によっては期限を延長せよという声もあるので理事会では3月まで延期することにしたので認められれば期限を3月末延長することにしたい。議長採決により異議なしの声多数3月末まで募集期限を延長した。

○千曲会厚生施設利用について

町田理事別紙施設利用案内は本部の考えであるがご意見はないか。施設利用期までには詳細な案内書を考慮中である。千曲会報に内規等を載せる考へである。質疑(神奈川支会)利用宿泊時間をユースホテルなどにならって午後5時を3時にしたらどうか。(静岡支会)本当なら更に午後から翌日の午前を一泊としたらよい。(蒲生顧問)別所にも厚生施設を作ったこともある同窓以外にも利用出来るようにしておいたらどうか。(宮崎支会)施設の管理はむづかしい、火災盗難などの事故を防ぐ立場からも常任管理者が望ましい。(北佐久支会)御代田駅にも近いし信越線が昭和40年までに電力化すること、大市街地構想もあることを考えると非常に別荘地として有望である。本会の計画は良い。(猪坂顧問)積極的に更に10軒位造って別荘地帯としたらどうか、貸別荘として考えれば利用方法はある。

議長一猪坂氏より面白い案があったが本部で考えてむらうとして利用時間は午後からということで承認して宜しいか。異議なく決定。(町田理事)千曲寮施設費整備等不足を生ずるので特別会計から充当すること承認願いたい。諒解決定した。



(荻原理事長) 利用度をもて更に拡張して貸別荘を造るには総会の決議を待つことになり時期を失しないように考えられるので理事会に一任願い度い。異議なく決定。

○総会に講演会開催について

(荻原理事長) 総会に講演会開催するよう提案されているが学内理事会で検討の結果困難であるという結論に達した。どうしてもやるということであれば学部祭で卒業生に講演を願っているのをこれと共催するか、繊維科学振興会と協同行うことが考えられる。期日については茨城支会よりもっと気候の良い時に開催せよと提案があるが現行の期日が学会や仕事の都合上良いも又いも天候に恵まれてきたことも考え審議して欲しい。(神奈川支会) 提案説明の荻原理事長案に賛成。(茨城支会) 期日変更の件はそれほど強い意味もないのでこのさい提案を撤回する。(宮崎支会) 遠方からくると多く得るところが嬉しいので総会にプラスして講演会を開くという機会を得られれば幸いである、総力を結集してやるよう努力して欲しい。期日は現状に賛成。(山口理事) 講演会に反対ではないが一日に両方やることは困難である講演会の件は今後の課題としておきたい。(上小支会) 講演会を開くことは会員の職種年齢等まちまちで同じ講演会を開くことは困難である。総会の会場は市民会館で行っては。(愛知支会) 総会はわれわれの出身繊維学部で開催したい。(議長) 講演会のことは保留。期日は現行のとおり。開催場所は母校において開催したらよいと思う。このように異議なく決定した。

○賛助員の推せんについて

(山口理事) 説明学部も段々発展して教職員の数は増える関係上賛助員が多くなりすぎるという意見が出て今後の推薦基準は講師以上の先生、係長以上の事務官を推挙することに理事会で決定している。今年は繊維機械学科村上尚先生。土屋市治事務長。青年心理学の田中博正講師。英語の高橋規矩講師の4名の方が推薦されることになる。全会一致賛成。

○千曲会のあり方について

(荻原理事長) 提案説明千曲会員の親睦を深めてゆくには会員で連絡意志疎通がうまくいかないようでは今の目的の契を上げることも出来ないのではないかと本会も大世帯になり昔のように緊密にすることは容易ではないがどうすれば良いかというのが議案の趣旨で様々な案例えれば科別、年次別会と本会と直結させる案などが提出されているので審議願いたい。

(神奈川支会) 支会総会に学部の先生をお招きすると出席者が多いので、その時は連絡してむらいたい。学生は知識慾があるが学会と離反していると考えられる。学科内で講師を招いて講演会を行なうということは考えられないか。(東京支会) 東京の本会員の中には他の大学の講師などしているものがあるが上田ではしていない。授業の間にはさんで先輩を利用したらどうかということが支会総会で話題になった。東京支会では先日賛助員の先生のご出席をえて講演会を催したが若い会員も多く出席し盛会であった。若い人だけの会というものはむづかしい、先輩の大家を呼ぶとうまくいくが困難である。軽い気持ちで皆なが寄れるようにして欲しい。

(愛知支会) 支会では地域産業を考えて出席願う先生を指定したりしている。若い人は仕事に共通性があるので集まり易い。本会評議員の選出には支部の意向も入れて欲しいという考えもある。(東京支会) 卒業別、学科別に評議員を依頼してはどうか組織的にも動き易くなるではないかと思う。年令別グループを総会に直結させても良いと思う。(宮崎支会) 総会には1時間でもよいから講師を呼んで魅力あるようにして欲しい。なお総会出席者が判るように席に氏名を表示してほしい。(北奥支会) 精神的なつながりのため連絡員をお願い

てはどうか。会費納入成績悪いそうだが年額会費を500円にしてはどうか。(愛知支会) 支会幹事の熱意によって活発化される。一度活発になると良く続くものである。賛助員の先生にも出席願っている。会員の半数以上出席して盛会である。

(近畿支会) 千曲会活動資金募集をしたらどうか。会員名簿会報発行のために使途したらよいと思う。職別に名簿の正確さを確認して欲しい。以上のように各支会代議員から多くの質疑意見の発表があり。荻原理事長より説明があり、ことに賛助員の先生の支会への出席は指名のあった場合にはお願いすることにしている。支会の要請に応ずるようになっているので支会で考えて実行してむらいたい。尚発表された貴重など意見については充分本会の向上発展に資したい。以上にて山田良人議長の明快な議事進行振りによって全議案審議は終了し、小林運美副会長の閉会のことばがあって会議は終了した。

尚1同ロマンスカーにて上田築城380周年記念、上田市民会館落成を祝って飾りたてた市内を通って上田公園内の市民会館に開催の県美術展を観賞して午後6時香青軒において懇親会が催された。

千曲会第24回総会出席者 (敬称略、順不同)

- | | |
|--------------|-------------------|
| (北 奥) 小原 二一 | (宮 城) 野口 浩也 |
| (福 島) 安部 和 | 西田 正 |
| (茨 城) 大工原 卓 | (埼 玉) 関 光司 |
| (群 馬) 岸 勝弥 | 浜井 寿夫 栗林 茂浩 |
| (東 京) 小林 運美 | 荒木 喬 宮下 久吉 |
| | 齊藤 義臣 |
| (神奈川) 滋野 文雄 | (石 川) 齊田 新次 |
| (北佐久) 小山 俊吾 | 大山 融 遠山 正人 |
| (南佐久) 前島正 直 | (越 佐) 上村 賢造 |
| (北 信) 宮城 博 | 今井甲子男 戸田 正行 |
| | 井沢 喜三 |
| (安 筑) 浅野 清志 | 河野 太郎 |
| (諏 訪) 小松 忠幸 | 村山 稔助 |
| (静 岡) 山田 良人 | (岐 卓) 石坂 尊雄 |
| (愛 知) 沓掛 久雄 | 中村登一郎 小山田 峻 |
| (三 重) 鈴木 正悟 | (兵 庫) 石井 昭衛 |
| (近 畿) 石坂虎治郎 | (高 知) 中山 剛 |
| (宮 崎) 中島 茂 | (香 川) 青木 静志 |
| (上 小) 母袋忠右衛門 | 猪坂 直一 蒲生 俊興 |
| | 倉沢 美德 林 貞三 宮下 力 |
| | 香山 清和 佐藤 一 竹内 善吾 |
| | 島田 林助 倉沢 秀一 上平 恒一 |
| | 田口 玲 川上 保人 箱山 俊雄 |
| | 桜井 隆夫 西沢 正一 箱山 住夫 |
| | 窪田 作水 和田 晋 茅野清三郎 |
| | 荻原 清治 町田 博 白井 美明 |
| | 関 博夫 竹田 寛 篠原 昭 |
| | 三石 賢 小林 勝 滝沢 達夫 |
| | 矢彦沢清光 阿久津伊平 田中 一行 |
| | 土屋 幾雄 窪田 衛二 小山 定 |
| | 大工原 健 田中 茂光 小泉 清明 |
| | 一之瀬匡興 美齊津利正 小笠原真次 |
| | 坂口 青三 北条 舒正 野口新太郎 |
| | 青沼 茂 小山 長雄 野沢 潤子 |
| | 山崎 嘗録 遠藤 恒久 石川 博 |
| | 押金 健吾 中島 暹 小林 尚一 |
| | 山口定次郎 大屋 正尚 母袋 良平 |
| | 白井 要範 |

昭和37年度社団法人千曲会歳入歳出決算書

歳入決算高金 876,998円
歳出決算高金 826,100円
歳入歳出差引残高38年度繰越金 50,898円

昭和38年11月23日

社団法人千曲会理事長 荻原清治

歳 入					
種 目	本年度 決算額	本年度 予算額	増	減	備 考
1.基本財産利子	78,135	74,000	4,135		貸付信託 電話債券
2.前年度繰越金	138,944	20,000	118,944		
3.雑収入	106,709	106,100	609		会社広告 年賀暑中 同広告
1)広告料	51,680	90,000		38,320	
2)印税	—	100		100	
3)当座予金利子	5,229	2,500	2,729		網糸の構 造外売却代
4)雑収入	49,800	13,500	36,300		
4.入会金	64,400	58,000	6,400		新入会員 161名
5.会費	485,810	625,000		139,190	50周年記 念寄付金
6.寄付金	3,000	400	26,000		
合 計	876,998	883,500		6,502	

歳 出					
種 目	本年度 決算額	本年度 予算額	増	減	備 考
1.会議費	68,580	66,000	2,580		
1)代議員旅費	40,120	40,000	120		34名分 懇親会補助
2)総会需用費	11,700	6,000	5,700		13名分
3)役員旅費	8,880	12,000		3,120	
4)役員需用費	7,880	8,000		120	
2.事務所費	193,381	225,600		32,219	
1)幹事給料	—	100		100	
2)書記給料	100,000	100,000		—	
3)旅費	29,850	30,000		150	支会総会
4)備入料	21,025	30,000		8,975	
5)役員交際費	4,345	5,000		655	
6)賞与	—	100		100	
7)備品費	2,150	5,000		2,850	
8)消耗品費	13,592	13,400	192		
9)会費収金費	15,222	30,000		14,778	
10)通信運搬費	5,467	10,000		4,533	
11)雑費	1,730	2,000		270	
3.事業費	412,594	370,400	42,194		
1)会報発行費	396,890	350,700	46,190		
(1)編集費	4,200	10,000		5,800	
(2)印刷費	220,440	165,000	55,440		11回会報 印刷費
(3)送料	165,590	165,000	590		
(4)需用費	6,660	10,000		3,340	
2)出版費	—	100		100	
3)会員名簿発行費	10,000	10,000		—	発行準備 費
4)講演講習諸費	—	100		100	
5)研究補助費	—	100		100	
6)調査費	—	100		100	
7)慶弔費	5,704	10,000		4,296	

4.基本財産造成費	64,400	58,000	6,400	
5.会費納入交付金	87,145	146,500		59,355
6.予備費	—	17,000		17,000
合 計	826,100	883,500		57,400

昭和37年度基本財産状況

基本財産	基本財産保管状況
固定資産 593,550円	
不動産 563,550	長野県北佐久郡御代田町大字草越字 向原119の35. 663坪昭和37年12月 4日登記済
土地 563,550	
流動資産 963,191	
基本金 963,191	三菱銀行貸付信託 350,000円 金銭信託 39,538 電信電話債券(額面69万) 573,653

項 目	取 入	支 出	現在高	備 考
前年度繰越金	898,791			
本年度利子収入	78,135			
本年度積立金	64,400			
通常会計繰入金		78,135		
合 計	1,041,326	78,135	963,191	

昭和37年度特別会計報告

収 入	支 出
前年度繰越金 431,132円	雑費(慶弔費) 8,100円
本年度利子収入 26,628	
合 計 457,760	合 計 8,100

差引残高 44,9,660円 昭和38年度に繰越す。

昭和37年度特別活動資金報告

収 入	支 出
前年度繰越金 226,737円	就職幹旋委員会費
寄付金	旅 費 4,900円
利子収入 10,047	募 金 経 費
合 計 236,784	手 数 料
	合 計 4,900

差引残高 231,884円 昭和38年度に繰越す。

昭和37年度千曲会厚生施設費報告

収 入	支 出
前年度繰越金 487,539	土地代 161,925
雑収入 8,269	建築費 563,550.30%
預金利子 8,269	施設費 1,834
雑 入	調査費 6,560
	公租公課 17,145
	雑 費 1,210
合 計 495,808	合 計 188,674

差引残高 307,134円 次年度に繰越す。

昭和37年度千曲会管平部分林管理費報告

取 入			支 出		
項 目	金 額	備 考	項 目	金 額	備 考
配分金	210,000	風倒木売 私代金	調査箱理費	19,235	
雑収入	5,645		管理人謝礼	1,600	
利子	5,645		寄 付	48,050	協定によ る学部 寄付
合 計	215,645		合 計	68,885	

差引残高 146,760円 次年度に繰越す。

昭和37年度厚生事業収支報告

取 入			支 出		
項 目	金 額	備 考	項 目	金 額	備 考
前年度繰越金	1,334		給 料	37,000	
理髮代収入	71,000		備 品 費	14,400	扇風機 水道料 週刊誌
			消耗品費	4,555	
			電気料	7,652	
			借家料	6,203	
			雑 費	700	
合 計	72,334		合 計	70,490	
前年度繰越金	27		たばこ仕入金	1,091,110	
売上金	1,197,640		組 合 費	1,890	
雑 収 入	10,860		販売手当	30,944	
			給 料	60,000	
			事 務 費	24,000	
			雑 費	200	
合 計	1,280,527		合 計	1,208,144	

差引残高 1,844円(理髮)および383円(たばこ)を次年度に繰越す。

昭和39年度社団法人千曲会歳入歳出予算書

歳入予算高 金 1,040,500円
 歳出予算高 金 1,040,500円
 歳入歳出差引残高 な し

昭和38年11月23日

社団法人千曲会理事長 荻原 清治

歳 入

種 目	本年度 予算額	前年度 予算額	増	減	備 考
1.前年度繰越金	50,000	40,000	10,000		2070人× 300円
2.会 費	721,000	700,000	21,000		200人× 500円
3.入 会 金	64,000	60,000	4,000		新入会員 160人× 400円
4.基本財産利子	87,800	84,300	3,500		基本財産 1,203,000円 7.3% 千曲寮使用
5.施設使用料	19,000		1,900		
6.雑 収 入	97,700	98,200		500	
1)広 告 料	80,000	76,000	4,000		
2)印 税	100	100			
3)普通預金利子	4,100	3,900	200		
4)雑 入	13,500	18,200		4,700	
7.寄 附 金	1,000	1,000			
合 計	1,040,500	983,500	57,000		

歳 出

種 目	本年度 予算額	前年度 予算額	増	減	備 考
1.会 議 費	97,000	84,000	13,000		
1)代議員旅費	51,800	48,000	3,800		30人
2)総会需用費	20,000	13,000	7,000		懇親会補 助 15人
3)役員旅費	16,200	15,000	1,200		
4)役員需用費	9,000	8,000	1,000		
2.事 務 所 費	249,200	263,100		13,900	
1)給 料	120,000	120,100		100	
2)傭 人 料	23,100	35,000		11,900	77人
3)旅 費	40,500	37,500	3,000		25人
4)役員交際費	10,000	5,000	5,000		
5)賞 与	100	100			
6)備 品 費	3,000	3,000			
7)消耗品費	14,500	134.00	1,100		
8)会費集金費	21,000	35,000		14,000	
9)通信運搬費	12,000	12,000			
10)雑 費	5,000	2,000	3,000		
3.事 業 費	418,400	395,400	23,000		
1)会報発行費	348,000	385,000		13,000	
(1)編集費	10,000	10,000			
(2)印刷費	190,000	180,000	10,000		5,000部 10回
(3)送料	138,000	135,000	3,000		2,300部 10回
(4)需用費	10,000	10,000			宛名カ 下
2)出版費	100	100			
3)会員名簿発行費	60,000	50,000	10,000		
4)講演講習諸費	100	100			
5)研究補助費	100	100			
6)調査費	100	100			
7)慶弔費	10,000	10,000			
4.厚生施設費	21,000		21,000		水道電気 料 固定資産 税
1)管理費	10,800		10,800		
2)光熱水料	5,800		5,800		
3)公租公課	7,400		7,400		160人× 400円
5.基本財産造成費	64,000	60,000	4,000		100円× 2,070人 ×0.7
6.会費納入交付金	174,900	164,000	10,900		500円× 200人× 0.3
7.予 備 費	13,000	17,000		4,000	
合 計	1,040,500	983,500	57,000		

昭和37年度上田織維科学振興会歳入歳出決算書

歳入決算額 370,616
 歳出決算額 180,616
 歳入歳出差引残高 190,000

昭和38年6月6日

上田織維科学振興会理事長 柳 沢 延 房

歳入項目	本年度 決算額	本年度 予算額	増	減	備 考
1.前年度予算額	130,395	59,600	73,495		
2.基本財産利子	237,600	237,600			330万× 7.2%
3.雑 収 入	2,621	600	2,021		
普通預金利子	2,621	500	2,121		
雑 入		100		100	
合 計	370,616	295,100	75,516		

歳出項目	本年度 決算額	本年度 予算額	増	減	備考
1.事務費	11,140	13,200		2,060	
手当	7,200	7,200			謝金
旅費	3,940	6,000		2,060	
2.需用費	6,386	8,100		1,714	
消耗品費	3,301	2,800	501		(財)法人 設立申請 書作成費
通信運搬費	1,075	3,000		1,925	
雑費	2,460	2,300	160		
3.会議費	11,696	12,000		304	
会議費	11,696	12,000		304	
4.事業費	140,000	211,000		71,000	35,000円 ×2人 30,000円 ×1人
研究助成費	100,000	101,000		1,000	
研究表彰費	40,000	40,000		40,000	
学会講演会補助費	40,000	70,000		30,000	特別講演 補助1万 非常勤 補助3 万
5.公租公課	10,944	23,800		12,856	
公租	10,944	23,800		12,856	
6.予備費		27,000		27,000	
予備費		27,000		27,000	
合 計	180,616	295,100		114,484	

昭和39年度財団法人上田繊維科学振興会歳入歳出予算書

歳入予算額	金 310,700円
歳出予算額	金 310,700円
歳入歳出差引残高	なし

昭和38年11月23日

財団法人上田繊維科学振興会理事長 柳沢延房

昭和39年度財団法人上田繊維科学振興会歳入予算書

項 目	本年度 予算額	前年度 予算額	増	減	備考
1.前年度繰越金	63,800		63,800		
前年度繰越金	68,800		63,800		
2.基本財産利子	244,800	237,600	7,000		
基本財産利子	244,800	327,600	7,000		電信電話 債券330 万円の7. 2%
3.雑収入	2,100	1,600	500		貸付信託 元本10万 円の利子 7.2%
当座預金利子	2,000	1,500	500		
雑収入	100	100			
4.寄付金		90,000		90,000	
寄付金		90,000		90,000	
合 計	310,700	329,200		18,500	

昭和39年度財団法人上田繊維科学振興会歳出予算書

項 目	本年度 予算額	前年度 予算額	増	減	備考
1.事務費	36,700	34,400	2,300		単位円
(1)手当及び旅費	13,200	13,200			
手当	7,200	7,200			謝金
旅費	6,000	6,000			
(2)需用費	9,500	9,200	300		
消耗品費	4,000	3,700	300		
通信運搬費	3,200	3,200			
雑費	2,300	2,300			
(3)会議費	14,000	12,000	2,000		
会議費	14,000	12,000	2,000		
2.事業費	238,000	221,000	17,000		研究助成 4人 表彰1人
研究助成及表彰費	168,000	151,000	17,000		
学会講演会補助費	70,000	70,000			
3.予備費	10,000	10,000			
予備費	10,000	10,000			
4.翌年度繰越金	26,000	63,800		37,800	
翌年度繰越金	26,000	63,800		37,800	
合 計	310,700	329,200		18,500	

母校火災復興資金申込納入調

(38.12.24現在)

支会名	申込 人員	申込金額 円	達成 率 %	納入 人員	納入金額 円	達成率 %	目標額 円
北海道	4	7,000	25.0	4	6,000	21.4	28,000
北 奥	22	48,000	88.9	21	46,000	85.2	54,000
山 形	18	42,000	93.3	17	38,000	84.4	45,000
宮 城	26	71,000	144.9	26	71,000	144.9	49,000
福 島	38	71,700	66.4	38	71,700	66.4	108,000
群 馬	8	14,000	6.5	7	12,000	6.5	217,000
埼 玉	45	74,400	41.6	45	74,400	41.6	178,000
栃 木	15	46,000	88.5	14	36,000	69.2	52,000
茨 城	39	66,200	75.2	39	65,200	74.1	88,000
千 葉	22	38,000	60.3	21	36,500	57.9	63,000
東 京	195	329,500	55.4	191	316,500	53.2	595,000
神 奈 川	70	158,000	82.3	67	149,000	77.6	192,000
山 梨	17	21,000	33.3	17	21,000	33.3	63,000
越 佐	12	18,000	20.7	11	18,000	20.7	87,000
石 川	11	22,000	66.7	10	19,000	57.6	33,000
福 井	5	11,000	39.3	5	11,000	39.3	28,000
富 山	22	35,000	50.0	21	33,000	47.1	70,000
北 佐 久	12	24,000	16.3	10	21,000	14.3	147,000
南 佐 久	5	8,000	15.7	5	8,000	15.7	51,000
上 小	132	291,600	50.2	118	267,000	46.0	581,000
学 内	49	411,000	100.0	52	369,674	90.0	411,000
旧職員	4	13,000		4	13,000		
更 埴	18	43,700	26.8	18	43,700	26.8	163,000
北 信	38	109,000	44.9	37	99,000	40.7	243,000
飯 高	2	2,000	2.4	2	2,000	2.4	84,000
安 筑	80	136,000	75.6	80	136,000	75.6	180,000
竜 川	16	26,500	29.8	12	17,500	19.7	89,000
諏 訪	26	112,000	72.7	17	71,500	46.4	154,000
岐 卓	16	50,000	43.9	15	49,000	43.0	114,000
静 岡	20	36,000	41.3	20	36,000	41.3	87,000
三 重	52	109,000	103.8	51	107,000	101.9	105,000
愛 知	120	249,000	74.6	117	240,200	71.7	334,000
近 畿	36	62,000	26.1	34	60,000	25.2	238,000
京 滋	51	106,000	112.8	49	102,500	109.0	94,000
三 丹	32	66,000	78.6	24	47,000	56.0	84,000
兵 庫	44	97,000	87.8	43	96,000	83.5	115,000
山 陽	39	95,000	50.3	39	95,000	50.3	189,000
山 陰	10	10,000	22.2	10	7,000	22.2	45,000
徳 島	16	30,000	100.0	16	30,000	100.0	30,000
香 川	2	4,000	28.6	2	4,000	28.6	14,000
高 知	9	9,000	75.0	9	9,000	75.0	12,000
愛 媛	9	27,000	44.6	9	27,000	44.6	56,000
北九州	16	27,000	21.8	15	24,000	19.4	124,000
熊 本	12	20,000	45.5	12	20,000	45.5	44,000
宮 崎	6	14,000	53.8	5	13,000	50.0	26,000
鹿 児 島	9	16,000	53.3	9	16,000	53.3	30,000
合 計	1,450	3,276,600	56.5	1,387	3,056,374	52.7	5,800,000

支 会 便 り

支会総会が各地で催される

本会定期総会の結果報告をかね次の各支会では総会又は役員会を催した。12月7日開催北信支会総会には本会より町田理事、中村六男先生、が出席した。又群馬支会も同日行われ、山口理事、会田源作先生が出席した。なお、群馬支会には新支会会長に岸勝勝氏が選出された。12月8日埼玉支会には白井美明理事、長島栄一先生が出席し協力を得た。又上小支会では12月10日役員会を開催して支会名簿作成について幹事が地区を分担して会員動静をしらべて新に支会名簿を作ることを協議した。

楓ヶ丘信大千曲寮竣工式挙行

初冬には珍しい好天気恵まれた12月13日西軽井沢、楓ヶ丘信大千曲寮の竣工式が午後2時行われた。出席者は萩原理事長、野口顧問、山口定次郎、町田博、田口亮平、小林尚一、白井美明、北条舒正、遠藤恒久、関博夫の各氏理事および原田太郎御代町長、高山助俊、地元安川寛氏、山崎建設代表者山崎広氏、事務局から白井要範、小山よし子さんと初め萩原理事長の挨拶、山崎建設に感謝状記念品の贈呈があり、野口顧問および原田町長からそれぞれ祝辞があった。つづいて祝宴が催され午後4時帰田の途について。なおこの千曲寮は瓦葺平家建12.5坪で日本間6畳、洋間8畳の外炊事室、浴室、便所外を設備し高原の別荘としては格構の出来栄で千曲会員の憩いの場として季節には、ご利用される事をお進めする。

上田繊維科学振興会役員会開催

11月19日財団法人上田繊維科学振興会役員会が開催された。出席者は柳沢延房理事長、北条舒正副理事長、田口亮平、高木春郎、中村六男、野口新太郎、会田源作、萩原清治、香山清和、笠原正己、小泉清明、呉祐吉、関博夫の各氏理事および清水運策、竹内善吾の各氏監事で、協議事項は①研究助成規定、研究表彰規定および、本会寄付行為第4条第1項第4号、第5号の補助内規について別掲のとおり決定。②昭和39年度歳入歳出予算についても別掲5頁のとおり決定。③講演会開催については各学科において開催月日、方法等考究すること。④報告事項①役員任期については財団法人の主管広報課に打合せしたところ、県外に転勤したとか特別な事情でない限り任期2ヶ年を守ること。②昭和38年の歳入歳出出現計について報告があった。

学内役員研究会開催

12月25日学内理事、評議員、幹事、研究会を開催した。45名の役員が出席された。研究事項はさきに行われた定期総会で本部に委託された事項の協議で特に千曲会のありかたについて、きたんない意見の交換を行って本会の向上発展に裨益するところがあった。終って過般の総会の準備等ご足労願ったので慰労会や忘年会を一緒に催し盛会であった。

母 校 ニ ュ ー ス

科学教育研究室生発表会開催

信州大学科学教育研究室生第12回研究発表会は去る11月30日の午後1時から生物学教室において開催された。

研究発表者ならびに演題は下記の通りである。

- (1)十文字峠の植生 上田東小学校 青木利治 (指導教官 小山長雄助教授)
- (2)植物の茎における機械的組織の分布に関する研究 上田東小学校 樋口カエ子 (指導教官 田口亮平教授)
- (3)坂城町水系に関する研究 第1報 マイクロベントス (坂城小学校 多近多開 指導教官 小泉清明教授)
- (4)補強加硫ゴムの Mullins 効果についての測定 長野西高校 高野昭 (指導教官 佐藤良泰教授)
- (5)補強加硫ゴムの静的レオロジーとくに Mullins 効果について 小諸高校 山浦俊美 (指導教官 佐藤良泰教授)
- (6)補強加硫ゴムの Mullins 効果の理論と測定と比較 更埴市西中学校 久保孝 (指導教官 佐藤良泰)
- (7)ナガイモ腐敗病を基因する Fusarium 菌について 相 森中学校 中沢 武 (指導教官 松尾卓見教授)
- (8)ユリの交雑における親和性について 野沢南高校 西沢芳智 (指導教官 長島栄一助教授)
- (9)花色発現に関する遺伝生化学的研究 松代高校 寺田 良 (指導教官 長島栄一助教授)

以上の9の研究発表が終わってから、特別講演として信州大学講師 田中博正先生(繊維学部心理学担当)のお話が約1時間にわたって行われた。演題は次の通りである。

“問題行動予測の研究動向について”

公 務 員 宿 舎 完 成

かねて工事中であった公務員宿舎二棟坪数37.74坪は12月10日完成した。場所は常田池近くの学部構内で閑静展望のよい所である。このほど田中博正先生、高橋規矩先生が入室された。

教職員宿舎の地鎮祭執行

学部改新期成同盟会では学部の発展に伴う教職員宿舎の不足を緩和するため新設を計画中であったがこのほど東信土建株式会社と工事請負契約を結び12月10日学部改新期成同盟会副会長柳沢健太郎氏、小泉学部長を始め関係教職員参列宮原大正治神官によって厳粛に地鎮祭が行われた。位置は学部構内上田市常入手筒山969の2で建築規模は独身寮2階建延60坪1棟4戸分および2階建延72坪4戸分の近代的宿舎の設計で完成予定は39年4月10日である。なお完成の上は文部省に寄付移管することになっている。

農場収穫感謝祭行わる

12月10日例によって農場収穫祝いがジギスキャンを囲む猛煙の中で行われた。第1回席は学部長、事務長をはじめ、各科の農場委員をつとめるお偉ら方の先生方、2回席は農場職員一同と来賓各位、さらには嗅覚組の飛び入りも頂いて盛大に挙行された。

今年の農場は近代化と重点整備の途上で多事多繁な年であった。綿羊牧場と繊維植物園の造設開始。特に機械化養蚕の実用化試験は官界、業界、養蚕家の共鳴を呼び見学団体は連日のように訪れ、その応待に大わらわであった。思えば流汗拭ういとまもなかったこの1年の労苦も一瞬の煙りと共に消え去るように……

信州昆虫ウイルス談話会

長島 栄一

かいこを含めて昆虫ウイルスの研究は外国でも日本でも、最近著しい進展をみているが、私たち——主にかいこほか、昆虫のウイルス病(膿病、中腸多角体病伝染性軟化病)などの研究に関係しているものたちが集まって「信州昆虫ウイルス談話会」なるものを作って、病理、形態生理、遺伝、飼育技術など各部門から追究し、蚕病の防除、害虫駆除など、ひいては一般ウイルス、分子生物学などまでに寄与しようということになり初めての企てとして今回は次のような方法で研究談話会を開いた。

時 昭和38年12月14日(土)

am10~pm3.30

所 信州大学繊維学部第一会議室
研究会テーマ：蚕病の発生をめぐる諸問題——特に誘発と感染を中心として——
司会 信大繊維 山口定次郎
話題提供

- (1)ウイルス病誘発ならびに感染に関する 綜説(45分) 東大教授 有賀久雄
- (2)蚕の軟化病(膿)のその後の研究三つ (45分) 上田蚕種学研長 山崎 寿
- (3)蚕の軟化病の感染と誘発(45分) 長野蚕試技師 河田栄一

会 員 動 静

浅治 袈裟男 紡 13 愛 媛 帝人株式会社松山工場長(松山市北吉田町)

岡庭 武治 蚕 23 群 馬 勢多前橋養蚕連合会 前橋市北代田町546の2

所 幸直 紡 28 上 小 角洋商事有限公司(上田市新田2172 電話(2)2121)

益淵 誠正 糸 21 愛 媛 愛媛統計調査事務所 松山市道後岩崎町248 公務員住宅

猪原 良芳 糸 22 近 畿 倉敷レイヨンKK本社(大阪市北区梅田新阪急ビル)

桑木 正義 糸 23 山 陽 山口県産検定所(山口県大字大内御廻)防府市宮市5

大東 隆夫 学紡 7 栃 木 栃木県立那須工業高等学校(那須郡西那須野町)

白石 金造 蚕 31 栃 木 栃木県今市市立今市中学校

都築 清治 蚕 20 兵 庫 鐘淵蚕糸KK(神戸市生田区浪花町興銀ビル)宝塚市小林字葉切18の10

鈴木 玄九 糸 18 兵 庫 鐘淵蚕糸KK取締役(神戸市生田区浪花町興銀ビル)

木村 正美 糸 26 兵 庫 鐘淵蚕糸KK(神戸市生田区浪花町興銀ビル)神戸市灘区五毛通り2丁目7

関 昭夫 紡 23 近 畿 東洋紡績株式会社(大阪市北区堂島浜通2の8)西宮市段上町3の99の2

日幡 暎一 糸 25 三 重 三重県鈴鹿市南長太町

竜竹 璋夫 化 1 北九州 富士紡績大分工場 大分市生石町50富士紡川向社宅

荒井 注人 蚕 37 群 馬 日本レイヨンKK桐生工場(群馬県桐生市市広沢町6の845)

飯塚 義富 化 1 京 滋 宇治市木幡榎屋32

塩入 重雄 糸 26 埼 玉 兼松羊毛工業KK蔵工場長(埼玉県蔵市蔵1455)

塩田 康房 学化11 福 井 興羽紡績KK敦賀ナイロン工場技術課(敦賀市興羽町興羽社員寮)

寺崎 喜美 糸 23 北 奥 秋田県湯沢蚕業指導所(秋田県湯沢市東松沢80)

関島 稔 学糸6 東 京 従前通り 東京都北多摩郡狛江町和泉2.991

小池 幸澄 学化4 愛 知 艶金興業一宮工場(一宮市寺島町1の1)

中岡 弘 学紡10 岐 阜 都築紡績KK糸貫工場(岐阜県本巣郡糸貫町3種)

星野 安宏 糸 23 愛 知 興和紡績KK蒲郡工場(蒲郡市蒲郡町石川8)名古屋市昭和区川名本町6の3

田中 栄一 紡 26 岐 阜 三菱レーヨン岐阜工場(岐阜市本庄)岐阜市本庄3.456三菱レーヨン社宅A5

松井 正之 紡 28 近 畿 興和紡績KK和歌山工場(和歌山市12番丁6)

秋山武一郎 糸 19 京 滋 京都市右京区嵯峨南中院町

柳沢 信 紡 24 岐 阜 大日本紡績KK垂井工場)岐阜県不破郡垂井町)



TEL 上田 (2) 0128・3128

編集室より

1964年の新年を迎え会員読者各位のいよいよご健康で活躍の年でありますよう祈念いたします。今年には東京オリンピックの世紀の祭典が行われる希望に充ちた躍進の年があります。繊維という技術の下地に新しい科学技術の粋を結集して、この面では申すに及ばず、各方面に市広い躍進成果を期待いたします。

編集委員 小林尚一, 香山清和, 大屋正尚, 吉平福紀
窪田 衛, 大工原建, 小山 定, 滝沢達夫
小林 勝, 白井要範



皆様の百貨店

上田・中央



オルガン
ミシン針

長野県小県郡塩田町

オルガン針株式会社

TEL 塩田 650

社長 増島 芳美